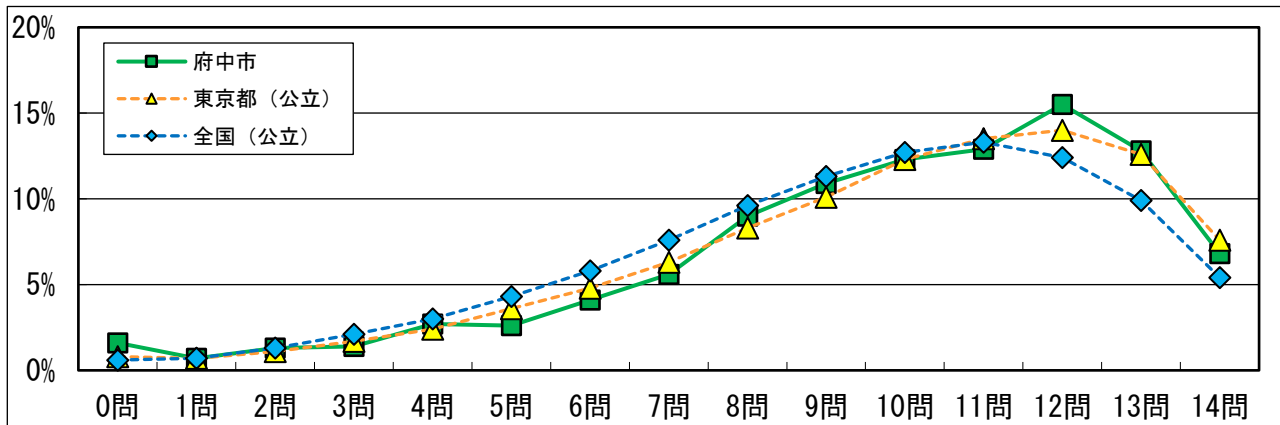


小学校国語

小学校	平均 正答率 (%)	中央値	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			R6 小学校	平均 正答率
国語		14問中	言葉	情報の扱い	言語文化	話・聞	書く	読む		
府中市	70	10	78.8	68.8	82.8	69.4	73.3	59.8	府中市	69
東京都	70	10	77.9	66.9	83.8	69.9	72.4	61.0	東京都	69
全国	66.8	10	76.9	63.1	81.2	66.3	69.5	57.5	全国	67.2



【主な設問別結果】

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)			無解答率 (%)		
			府中 市	都 京 都	全 国	府中 市	都 京 都	全 国
2 三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる	64.5	62.1	61.3	4.9	5.9	5.0
3 三(1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかをみる	45.4	47.0	40.8	7.1	4.7	3.4
3 三(2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかをみる	56.4	56.5	56.3	19.9	19.9	16.2

【教科に関する調査から分かったこと】()は問題番号

- 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること(問2三)について、平均正答率は都・全国よりも高いことから、「書くこと」において、目的や意図に応じて表現方法を適切に調整する力が定着している傾向がある。
- △ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること(問3三(1)(2))について、平均正答率は全国よりも高いが都よりも低く、無回答率は都・全国と同様か全国より高いことから、「読むこと」において、目的意識をもって読み取ることや文章から必要な情報に着目する力については、十分に力が発揮されていない傾向がある。

【質問紙調査から分かったこと】

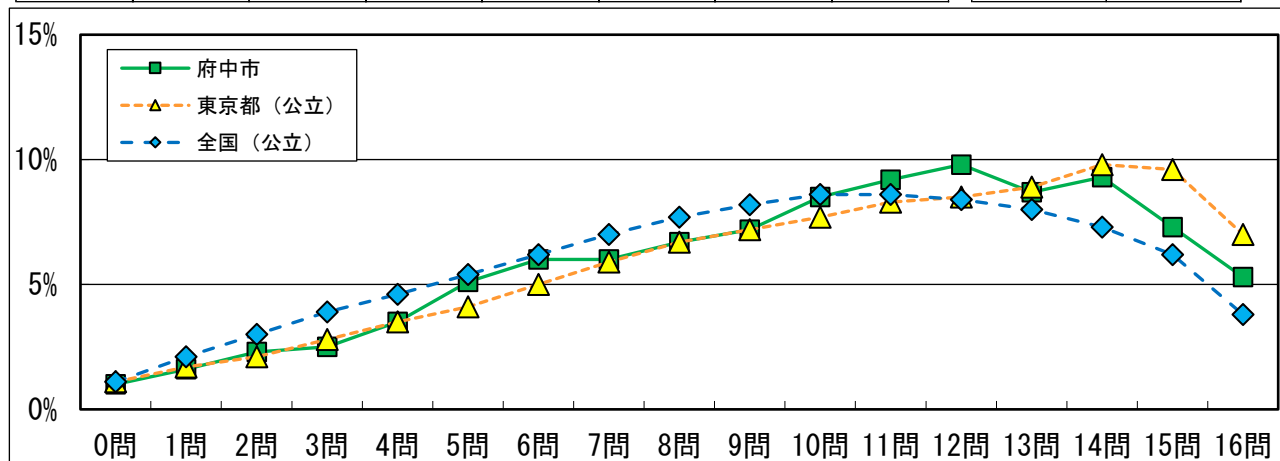
「国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか」について、肯定的な回答をしている児童ほど平均正答率が高い傾向がある。

	市・児童数 の割合	市・国語 平均正答率
よくしている	30.0	77.1
どちらかといえぼしている	48.5	70.2
あまりしていない	17.4	60.4
全くしていない	3.8	58.0

文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要である。また、必要な情報は目的に応じて変わるため、読む目的を明確にすることを大切である。授業では、複数の資料を結び付けて読む学習活動を設定し、それぞれの資料がどのような関係があるのか考えながら読む指導を行うことが効果的である。

小学校算数

小学校 算数	平均 正答率 (%)	中央値 16問中	学習指導要領の領域別平均正答率 (%)					R6 小学校	平均 正答率 (%)
			数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用		
府中市	62	10	66.6	59.6	58.0	62.9	67.1	府中市	67
東京都	64	10	68.3	61.2	60.5	64.9	67.6	東京都	68
全国	58	10	62.3	56.2	54.8	57.5	62.6	全国	63.4



【主な設問別結果】

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)			無解答率 (%)		
			府中市	東京都	全国	府中市	東京都	全国
4 (1)	新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる	87.6	86.9	82.8	3.5	3.0	2.6
3 (2)	$3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	25.8	29.7	23.0	15.9	16.2	15.7
3 (3)	数直線上に示された数を分数で書く	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	39.9	45.8	35.0	7.8	8.5	7.8

【教科に関する調査から分かったこと】()は問題番号

- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと (問4(1)) について、平均正答率は都及び全国よりも高いことから、数量の関係性の理解や数量の把握に基づき問題を解決する力が定着している傾向がある。
- △ 小数や分数の計算の仕方について統合的・発展的に考察すること (問3(2)) や、分数を単位分数の幾つ分と捉えて数直線上に表すこと (問3(3)) について、平均正答率は全国よりも高いが都よりも低いことから、小数や分数の仕組みや意味を考える力は、理解の深まりに課題が見られる傾向がある。

【質問紙調査から分かったこと】

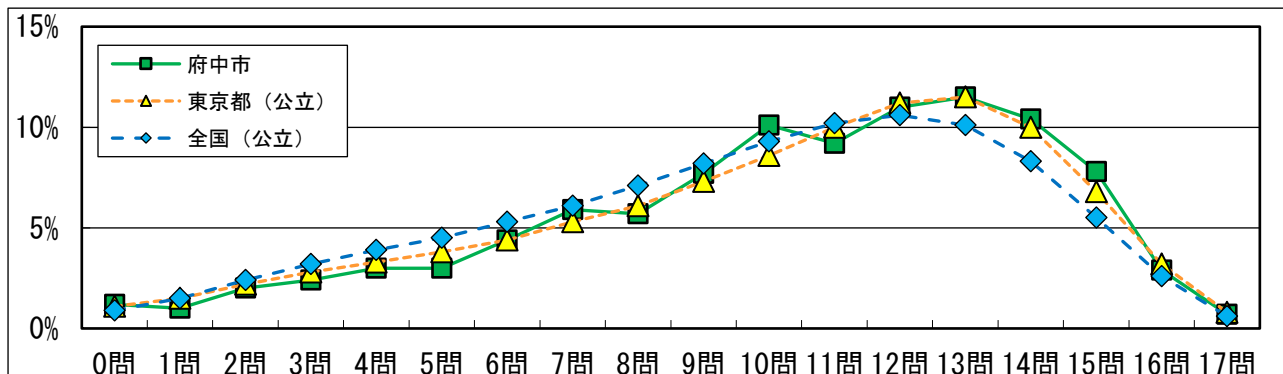
「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」について、肯定的な回答をしている児童ほど平均正答率が高い傾向がある。

	市・児童数の割合	市・算数平均正答率
当てはまる	32.4	72.5
どちらかといえば当てはまる	34.7	62.0
どちらかといえば当てはまらない	23.8	54.3
当てはまらない	8.9	47.8

数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目することが重要である。授業では、0から1までが何等分されているのかに着目して、単位分数を捉えることができるようにするとともに、言葉や図・表、式などを関連付けながら表現できるようにすることが大切である。

小学校理科

小学校 理科	平均 正答率 (%)	中央値 17問中	学習指導要領の領域別平均正答率 (%)				R4 小学校	平均 正答率 (%)
			エネルギー	粒子	生命	地球		
府中市	60	11	50.4	54.1	54.8	70.7	府中市	67
東京都	60	11	49.9	53.7	54.1	69.1	東京都	65
全国	57.1	10	46.7	51.4	52.0	66.7	全国	65.3



【主な設問別結果】

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)			無解答率 (%)		
			府 中 市	東 京 都	全 国	府 中 市	東 京 都	全 国
1 (3)	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる	83.0	80.8	77.8	1.4	1.3	0.9
2 (2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	45.7	46.8	42.9	1.2	0.9	0.6
4 (1)	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く	水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる	49.9	49.9	50.6	7.4	7.8	6.1

【教科に関する調査から分かったこと】 ()は問題番号

- 【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶこと (問1(3)) について、平均正答率は都・全国よりも高いことから、実験・観察の結果を根拠にして考えを形成する力が定着している傾向がある。
- △ 電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶこと (問2(2)) や水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書くこと (問4(1)) について、他の問いと比べて平均正答率は低いことから、条件をもとに論理的に考える力や、問題解決のために必要な情報に着目して記述する力が十分に定着していない傾向がある。

【質問紙調査から分かったこと】

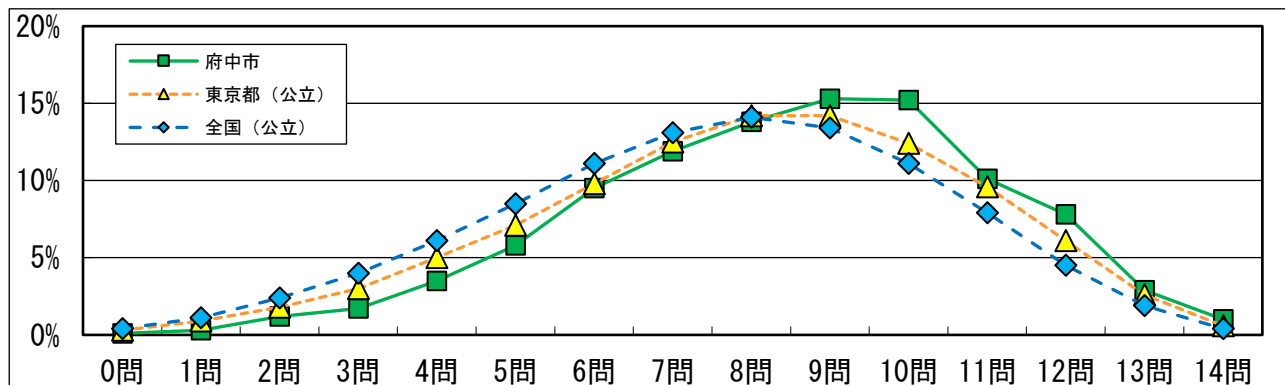
「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか」や「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」について、肯定的な回答をしている児童ほど平均正答率が高い傾向がある。

	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか		理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	
	市・児童数の割合	市・理科平均正答率	市・児童数の割合	市・理科平均正答率
当てはまる	31.9	65.9	32.5	65.4
どちらかといえば当てはまる	36.7	59.6	41.0	61.0
どちらかといえば当てはまらない	21.8	57.1	20.4	56.6
当てはまらない	9.5	56.2	5.9	47.1

解決したい問題を見いだすことや、学習を通して得た知識を活用して理解を深めることが大切である。授業では、児童が明確な目的を設定し、設定した目的が達成できているかを振り返り、修正するといった活動の充実を図ることで、学んだことの意義を実感できるようにすることが大切である。

中学校国語

中学校 国語	平均 正答率 (%)	中央値 14問中	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			R6 中学校	平均 正答率
			言葉	情報の扱い	言語文化	話・聞	書く	読む		
府中市	61	9	53.7			59.1	60.3	67.3	府中市	62
東京都	57	8	51.7			55.0	56.5	65.0	東京都	61
全国	54.3	8	48.1			53.2	52.8	62.3	全国	58.1



【主な設問別結果】

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)			無解答率 (%)		
			府 中 市	東 京 都	全 国	府 中 市	東 京 都	全 国
2 二	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	85.3	80.8	77.9	0.1	0.3	0.3
1 四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる	39.0	34.0	31.0	0.9	1.4	1.6
4 二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見つけて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	37.2	34.2	30.1	11.6	15.9	19.1

【教科に関する調査から分かったこと】 ()は問題番号

- 他者の発言を参考にして、自らの考えをまとめたり、深めたりすること（問1四）や、物語の場面ごとに、その状況について把握すること（問3二）について、平均正答率は都・全国よりも高いことから、対話的な学びを通じて思考を広げる力や、文章の構成や登場人物の心情を的確に読み取る力が定着している傾向がある。
- △ 案内文を書く場面において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと（問1四）や、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること（問4二）について、平均正答率は都・全国よりも高いが、他の設問と比べて平均正答率は低いことから、「書くこと」において、文章を論理的に構成したり、読み手に配慮して推敲したりする力が十分に定着していない傾向がある。

【質問紙調査から分かったこと】

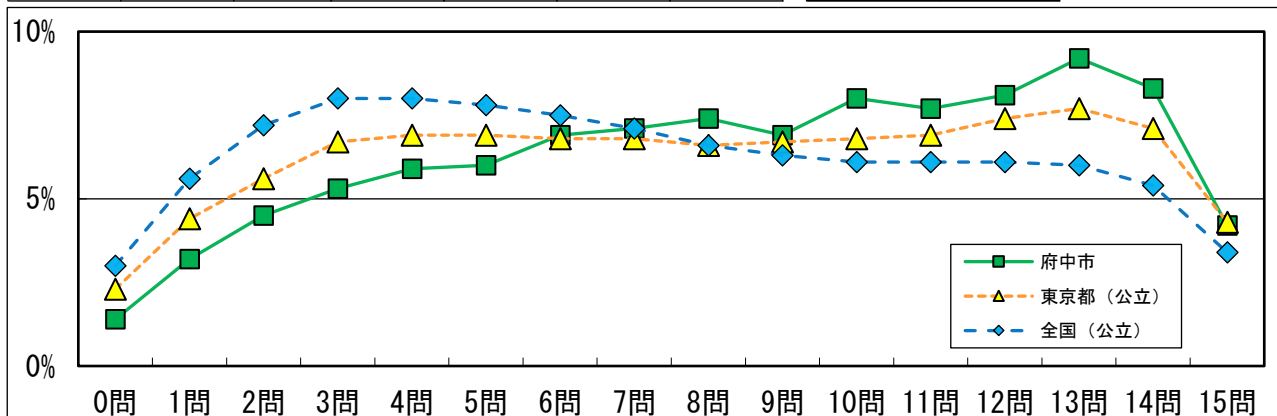
「国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか」について、肯定的な回答をしている生徒ほど平均正答率が高い傾向がある。

	市・生徒数の割合	市・国語 平均正答率
当てはまる	31.8	66.6
どちらかといえば当てはまる	46.2	59.8
どちらかといえば当てはまらない	18.4	54.6
当てはまらない	3.1	50.3

根拠を明確にするためには、自分の考えが事実や事柄に基づいたものであるか確かめることが必要である。授業では、書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるように指導することが大切である。

中学校数学

中学校 数学	平均 正答率 (%)	中央値 15問中	学習指導要領の領域別平均正答率 (%)				R6 中学校	平均 正答率
			数と式	図形	関数	資料の活用		
府中市	57	9	50.9	56.1	58.8	66.1	府中市	57
東京都	53	8	49.1	51.4	52.4	63.1	東京都	54
全国	48.3	7	43.5	46.5	48.2	58.6	全国	51



【主な設問別結果】

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)			無解答率 (%)		
			府中市	東京都	全国	府中市	東京都	全国
7 (1)	Aの手元のカードが3枚とも「ゲー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く	必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる	85.2	81.1	77.4	1.3	2.8	3.2
9 (2)	平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する	統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる	50.1	44.0	36.3	5.6	6.9	7.2
9 (3)	平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	44.4	39.1	33.2	21.7	27.9	31.5

【教科に関する調査から分かったこと】()は問題番号

○ 必ず起こる事柄の確率を求めること(問7(1))について、平均正答率は都・全国よりも高いことから、「データの活用」における基礎的な知識及び技能をもとに、事象を論理的に考察する力が定着している傾向がある。

△ 統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善すること(問9(2))やある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること(問9(3))は平均正答率は都・全国よりも高いが、他の設問と比べて平均正答率は低く、無回答率も高いことから、証明の構造を捉えて柔軟に思考したり、自分の考えを根拠をもって表現したりする力が十分に定着していない傾向がある。

【質問紙調査から分かったこと】

「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」について、肯定的な回答をしている生徒ほど平均正答率が高い傾向にある。

	市・生徒数の割合	市・数学平均正答率
当てはまる	19.0	65.7
どちらかといえば当てはまる	38.4	59.5
どちらかといえば当てはまらない	30.4	54.3
当てはまらない	11.7	42.5

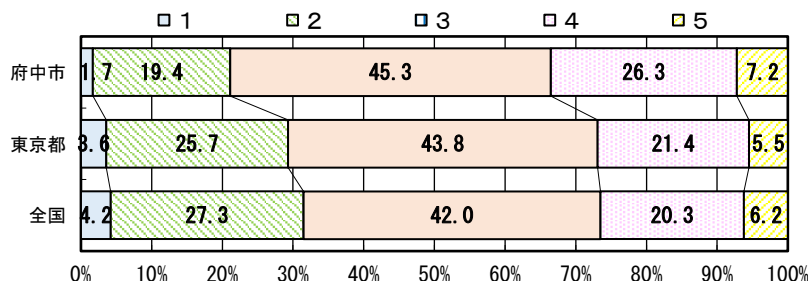
授業では、証明したことを基に、条件を変えた場合の証明について考察する場面を設定し、条件を変えても変わらない関係や、条件を変えると変わる関係を見だし、もとの証明を評価・改善することにより条件を変えた場合の証明ができるように指導することが大切である。また、証明の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。

中学校理科

中学校 理科	IRT スコア	標準偏差	IRTバンド集計値 (%)				
			1	2	3	4	5
府中市	530	114.5	1.7	19.4	45.3	26.3	7.2
東京都	506	117.9	3.6	25.7	43.8	21.4	5.5
全国	503	124	4.2	27.3	42.0	20.3	6.2

R4 中学校	平均 正答率 (%)
府中市	53
東京都	51
全国	49.3

(IRT バンド分布図：IRT バンド集計値の生徒の割合)



「IRTスコア」とは、問題の難易度を考慮して算出された生徒の理解度を示す値であり、500を基準とする。また、「IRTバンド」とは、算出された値を、一定の範囲ごとに区切って分類したものであり、バンドが高いほど生徒の理解度は高い。

このIRTバンドの結果から、府中市は都・全国と比べて平均スコアが高く、生徒間の学力差を表す標準偏差も比較的小さいことから、全体的に学力が高く、生徒間の学力差が小さいと考えられる。

【主な設問別結果】

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)			無解答率 (%)		
			府 中 市	東 京 都	全 国	府 中 市	東 京 都	全 国
1 (6)	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる	86.9	80.3	79.4	5.2	9.4	9.9
1 (1)	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	51.2	52.0	51.9	0.1	0.2	0.2
3 (1)	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる	26.6	35.1	34.9	0.0	0.3	0.2

【教科に関する調査から分かったこと】()は問題番号

- 探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現すること(問1(6))で、平均正答率は都・全国よりも高く、無回答率も低いことから、探究の過程で得た気づきを自分の言葉で整理し、生活とのつながりを意識して表現する力が定着している傾向がある。
- △ 回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識を身に付けること(問1(1))や、仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、既習の知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想すること(問3(1))の平均正答率は都・国より低いことから、基礎的な知識の理解や、それを活用して科学的に考察・予想する力が十分に定着していない傾向がある。

【質問紙調査から分かったこと】

「理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できていますか」について、肯定的な回答をしている生徒ほど平均IRTスコアが高い傾向がある。

	市・生徒数 の割合	市・理科 平均IRTスコア
当てはまる	16.0	584
どちらかといえば 当てはまる	40.5	535
どちらかといえば 当てはまらない	29.7	516
当てはまらない	13.5	482

授業では、指導に当たってこれまで学習した知識と新たな知識を関連づけるなど、知識の概念的な理解を深める学習場面を設定することが考えられる。その際には、身近な生活と関連をもたせながら、生徒の興味・関心を向上させることも大切である。